

1.ユニバーサル啓発講演会の報告

- テーマ** ユニバーサルデザインをもっと身近に
- 場所** アスピア明石北館7階 明石市生涯学習センター学習室704
- 日時** 2019年1月19日(土) 9:45~12:00
- 目的** 誰もが「住みやすい明石」について、みんなで考えよう。
01. 「いくつ知ってる?明石駅前のユニバーサルデザイン」
 02. 「ユニバーサルデザインの街、明石にするためにわたしたちができること」
 03. 「やってみました!!「ユニバーサルデザインMEISHO」あんなこと、こんなこと…」
「地域とともに 草の根のUD」
 04. 「みんなが住みやすい明石をみんなで考える」



ユニバーサル啓発講演会の感想

今回は学生の方にはしてもらったことが、参加された方や私自身、また学生自身にもよかったのではないかと思います。また高丘東小学校の取り組みを紹介できたことで、小学校の生徒さんは参加されなかったものの、参加された方からの感想や、このような場所に展示されたことで取り組まれたユニバーサルデザインの活動への意義をさらに強く感じてもらったのではないかと思います。講演会では、明石のユニバーサルデザインの取り組みやユニバーサルデザインの考え方、学生の取り組みなど、具体的に知る機会となり、ユニバーサルデザインについて普及啓発ができる場となっていたと思います。

シンポジウムでは、実際に当事者の方に参加して頂き、また学生やまちづくり協議会の会長の方に登壇して頂き、講演会ではできなかった具体的な分かりやすいお話であったと感じています。特に、当事者の方からのお話では、会場全体が耳を澄まして聴いているような雰囲気を感じました。実際の困りごとや、周りの対応、意識の問題や経験談まで、当事者の体験で周りが知らなかったことを共有できたことが、今後のユニバーサルデザインにつながっていくと思います。

ハード面も大切ですが、ソフト面(ハート面)のお話が多く、明石社会の未来に希望を感じました。

2.魚住・二見ブロック報告

魚住・二見ブロックでは、それぞれの事業所ですでに参画してきている地域での取り組みについての情報交換を行いました。今年度は、うおずみまちづくり協議会の主催する「うおずみ祭り」、明石工業高等専門学校の高専祭」の2つのイベントについて、135Eネットとして地域活動・社会貢献活動への取り組みについて相談し出店参加させていただきました。これからも情報を共有しながら、少しずつブロックの輪を広げ地域活動への協力・参画を活性化していきたいと考えています。その積み重ねの中で、共にまちづくりを考える一員になっていけることを願っています。



3.視察「はっぴーの家ろっけん -神戸市長田区-」

場所 はっぴーの家ろっけん 神戸市長田区二葉町1丁目1
事業形態…サービス付き高齢者住宅

日時 2019年1月22日(火) 13:00~15:00

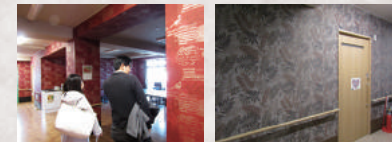
目的 ユニバーサル拠点事業や共生社会へのヒントに。高齢者住宅でありながら日々多様な世代・人種・職種の人が共生する場を実現しているから。どのようにしてそんな場ができたのか、根本の考えやプロセスを教えていただく。



スペース

1Fはフリースペース。高齢者、子供、子育て世代、学生など入居者や関係者以外の人も自由に集い、遊び・食事(持込み)・ミーティングなど、活用方法も人によって変わる。現在は、1週間に200名ほどの人(外部)が訪れる。

はっぴーの家では全ての人に居る理由があり役割がある。お手伝いは強制はしないが子供も大人も与えられる関係性だけでは居心地が悪い。自然とお互いを助け合うようになっている。



2F-5F: 入居者居室 6F: フリースペース
複全体のコンセプトは「世界旅行」各階(居室)ごとにアジア・ヨーロッパなどのテーマがあり内装が変わる。高齢者やその家族だけでなく、若い世代や海外の入居者もいる。代表自身も家族と一緒に住んでいる。

場づくりのポイント

「ルールを決めない」
はっぴーの家では、その時々状況や人によって在り方は変わる。全員違うことは当たり前で日常、何か、誰かを、ある一定の価値観に正す(治す・直す)のではなく、それぞれの居場所・環境を作る。

「他分野の人と友達になる」
同じもの(同業者)同士では新しいものは生まれない。関わり方も「友達になる」だとアプローチも変わる。何をやるか?よりも、誰がやるか?が大事。様々な人とプロセスを共有し、関わった人を大事にする。

はっぴーの家ができるまで 代表:首藤 義敬

長田に住んでおり、阪神淡路大震災を経験。被災した町には何もなかった。当時、行政が「新しく生まれ変わる!」と次々とインフラ整備を進めキレイな町になったが、つながりやコミュニティは再生しなかった。ソフト面を大事にしたいと、被災後も残っていた空家再生を始めた。自身が子育てと介護の大変さを目の当たりにし、何とかしたいと思ったのがはっぴーの家の原点。はっぴーの家を建てる前に、約1年かけてワークショップを行った。「6階建の建物を作ります。どんな建物にすればあなたの生活が豊かになりますか?」という問いかけを、地域の様々な人、100名と一緒に意見を出し合った。そこからニーズを整理し、事業計画を作成。様々なアイデアは9割ほど達成。現在も、日々生まれる意見やアイデアを形にし変化し続けている。

理念 -全ての試みは社会への問いかけ-

- はっぴーの家を問い続ける ●あたりまえをリノベーションする
- 非常識なことを、価値観に変える ●ほどよい関係性をデザインする

「みんなのため」ではなく、目の前にいる人や困りごと(見えるところ)を解決していく。日常の登場人物を増やす。人の輪があることが大切。

例) 共働き世代の多い地域。→「シェアキッチン」で台所を活用。「みんなで作った方が楽」という発想。歩いて通える図書館がない。→「本棚」を設置。あっという間に本棚が埋まるほど本が集まる。

4.メンバーのご紹介



いしいみやこ
石井美弥子さん

30代にほぼ見る力を失った。中視覚障害当事者だからこわかる支える側、支えられる側の思い。そんな両面の視点をユニバーサルへの取り組みに生かして、やさしいまち明石につなげるお手伝いができれば嬉しいです。